

平成22年度
研究成果

名古屋都市センター研究成果

平成22年度の研究の概要をご紹介します。
なお、研究報告書は名古屋都市センターのまちづくりライブラリーで、
概要版はホームページでご覧いただけます。

<http://www.nui.or.jp>

市民研究

研究
テーマ

“熱田神宮に門前街を…”

市民研究員 栗田 益生、富永 良和、水野 孝一、
小宅 一夫、渡邊 正則

この研究は「どうして熱田神宮に門前町はないのか」という疑問から始まった。

研究は、調査から始めた。調査は、一般調査や参拝者・商店・住民などに対するアンケートやヒアリング、全国の社寺を訪ねる事例調査である。

調査には多くの日時を要したが、開発された都会の中にあるという状況や商店の何ともしがたい実態など厳しいものがあった反面、考え方や方法によっては実現不可能でもないといった例もみられた。

これらに基づいて、課題や問題点を整理し、方向を定めた後、結論へ進めた。



研究
テーマ

駅そばライフ

～地域住民のための情報受発信拠点の構築～

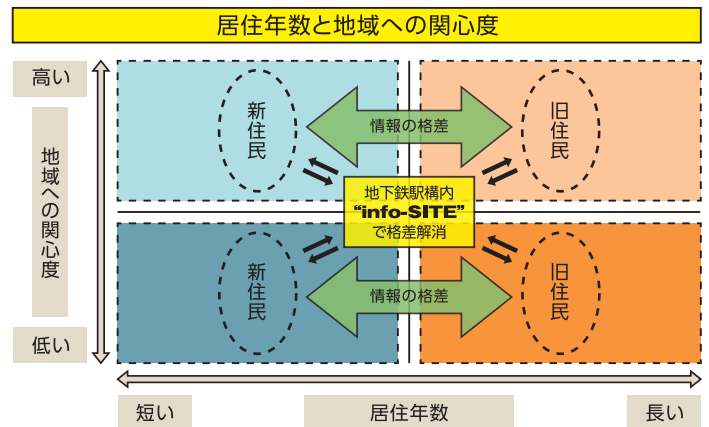
市民研究員 中村孝博、竹川時彦、横井圭一

名古屋市では、“低炭素化で快適な都市なごや”を目指し、2009年11月に「低炭素都市2050なごや戦略」を発表した。その中で、歩いて暮らせる駅そば生活を個別方針の一つとして掲げている。目安となる指標として、駅そば圏人口比率を現在の63%から75%に引き上げることを指標目的としているが、地域情報がスムーズに得られないまちに人が集まるのだろうか。

そんな時、「毎日通う地下鉄駅構内に、発信のみならず受信機能も備えた地域の情報コーナーがあったらどんなに良いだろう」という考えが浮かび、今回のテーマとなった。

今回の研究では、駅そばライフとしての地下鉄駅周辺における現状分析、その問題点と課題、そして地下鉄駅構内での具体的な提言を行った。

地下鉄駅周辺では新しい住民が、今後より一層増えることが予想される。地下鉄駅構内が身近な地域情報の受発信拠点として有効活用されることによって、新旧住民がごぞって行政とともにまちづくりに参画できるのではないかと確信している。



リブランディング1周年記念

G.H. マム F1メニュー

30Fスカイレストラン&バー「スターゲイト」
2011.9.1(木)～10.31(月)

Dinner ¥12,000 ◎ママグラスシャンパン付
Lunch ¥5,000 ※記載料金は、税金・サービス料込。



ANA
CROWNE PLAZA
HOTEL GRAND COURT
NAGOYA

〒460-0023 名古屋市中区金山町1-1-1
www.anacrowneplaza-nagoya.jp

ご予約・お問い合わせ Tel.052-683-4111(代)

『笑顔で結ぶ人と企業』

人材派遣 日美株式会社



業務内容:派遣全般・業務委託 ～教育・医療分野に確かな実績～



Tel:052-265-5553

HP:<http://www.nichibi-web.co.jp>

人材派遣 23-020031 有料職業紹介 23-ユ-020188

名古屋市中区錦1-5-13 オリックス名古屋錦ビル9階

名古屋都心ビジョン2030

名古屋都市センター 都心ビジョン研究会

「名古屋都心ビジョン2030」は、2030年を目標とし、名古屋都心の将来像を提案するものです。近未来の名古屋の都市づくりを考える上で、本ビジョンが、大いなる議論の起爆剤の役割を果たすことを願っています。

■ビジョンの対象範囲

都心ビジョンを作成するにあたり、検討対象に入れた地理的範囲は、おおむね、名古屋駅、則武、名古屋城、徳川園、鶴舞、大須、笹島で囲まれるエリアです。

■ビジョン作成の主な背景

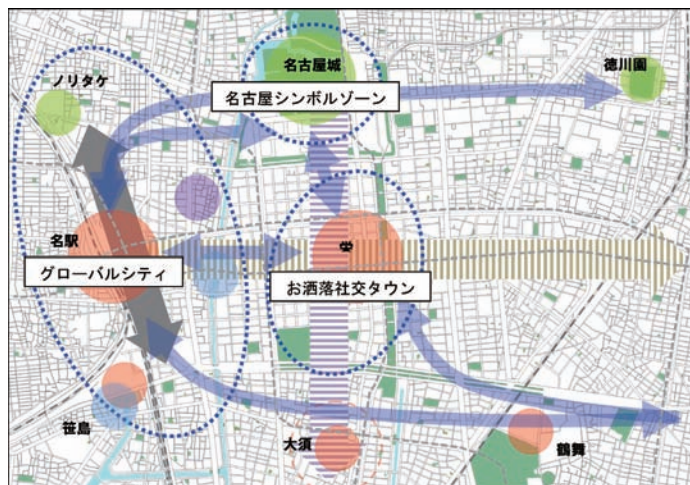
- 1 2027年開業予定のリニア新幹線により、東京～名古屋間が40分ほどで連絡され、名古屋の都市づくりに大きなインパクトがもたらされる。
- 2 名古屋の代表的な繁華街である栄の商業的求心力の低下が、名古屋駅前の再開発動向の活況情勢と対比され、一層懸念されている。
- 3 芸術文化活動や創造的産業を振興し、都市の活性化や都市間競争力の強化を図るクリエイティブ・シティ政策が近年脚光を浴びている。
- 4 都心の様々なエリアで、地元発意のまちづくり活動が展開されるようになり、こうした活動への支援は、地域個性に根ざしたまちづくりに不可欠となっている。

■主な提案内容

広域を視野に入れ、都心来訪機会を増大させ、都心滞在時間を延ばすことを強く意識し、3つの方向性と8つの方針を打ち出しています。

【3つの方向性】

- 1 都心ステイタスの強化…他都市にはない名古屋都心の特色や潜在力を一層発揮させる。とりわけ、名駅地区は世界に目を開いた「グローバルシティ」、栄地区は名古屋一番のハレ舞台として「お洒落社交タウン」、名城地区は何といても尾張徳川の象徴空間として「名古屋シンボルゾーン」の形成をめざす。
- 2 多核回遊の都心構造形成…名古屋駅、栄、名古屋城の3つの核と則武、徳川園、鶴舞、大須、笹島の5つの拠点に対して快適な歩行者モビリティを確保するため、都心流入自動車交通抑制策を展開すると同時に、LRTやチョイ乗りバスの導入を図り、トランジットモール等の整備を進める。



多核回遊の都心構造

3 エリアマネジメントの発揮…ビジョンを具体化する上で、官民協働のまちづくりは不可欠。このため、それぞれの地区で自立したエリアマネジメント推進母体の形成を促し、魅力的な公共空間形成を図る。

【8つの方針】

- | | |
|------------|---------------|
| ①都心回遊性を高める | ②良好なコミュニティ形成 |
| ③街の社交空間の生成 | ④良好な都市風景の形成 |
| ⑤創造コアの支援 | ⑥グリーングリッドの形成 |
| ⑦都心の防災 | ⑧エリアマネジメントの推進 |

ビジョン作成その後

都心の将来を考えるプラットフォーム「都心楽会」を活用し、プロジェクト展開を意識しながら都心ステイタスの強化、歩行者モビリティの向上、公的空間の質の向上に取り組みたい。

